



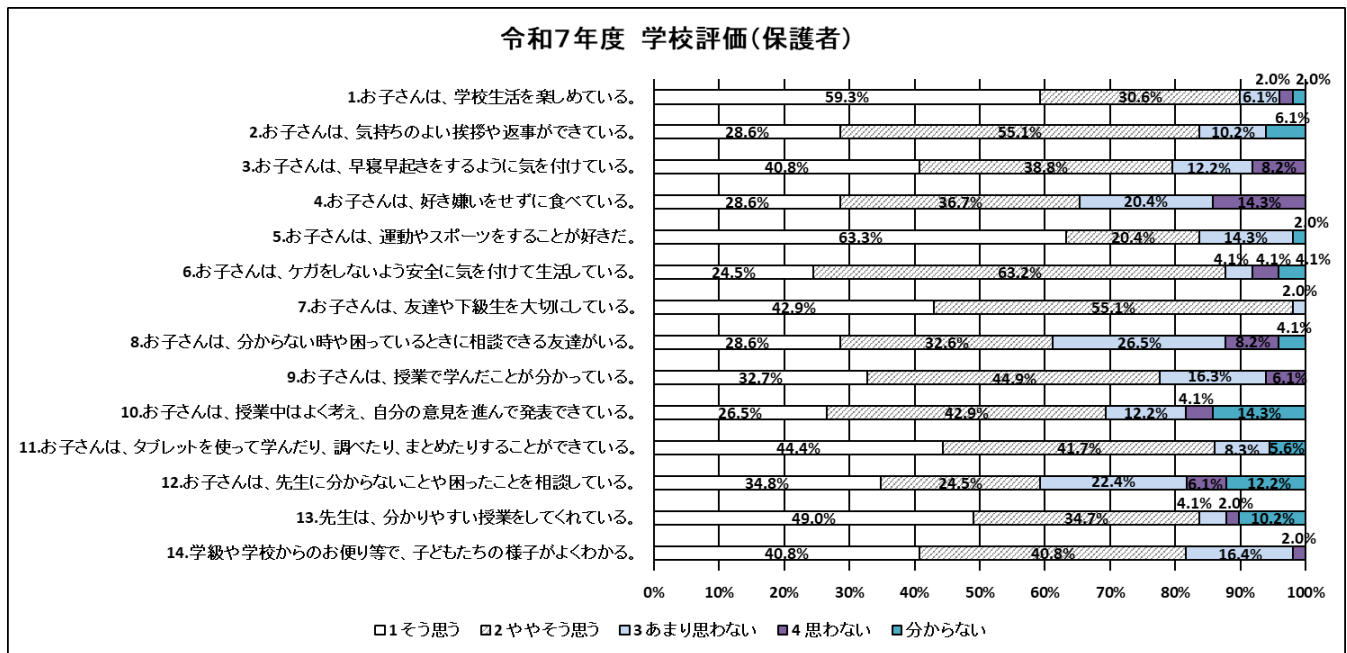
校長便り 第17号



梅の花がほころび始めました

学校評価アンケート【保護者向け】の結果より

2学期末に、保護者対象に学校評価アンケートを実施しました。年末で大変お忙しい中、ご協力ありがとうございました。89.1%の回答率でした。結果は以下のとおりです。



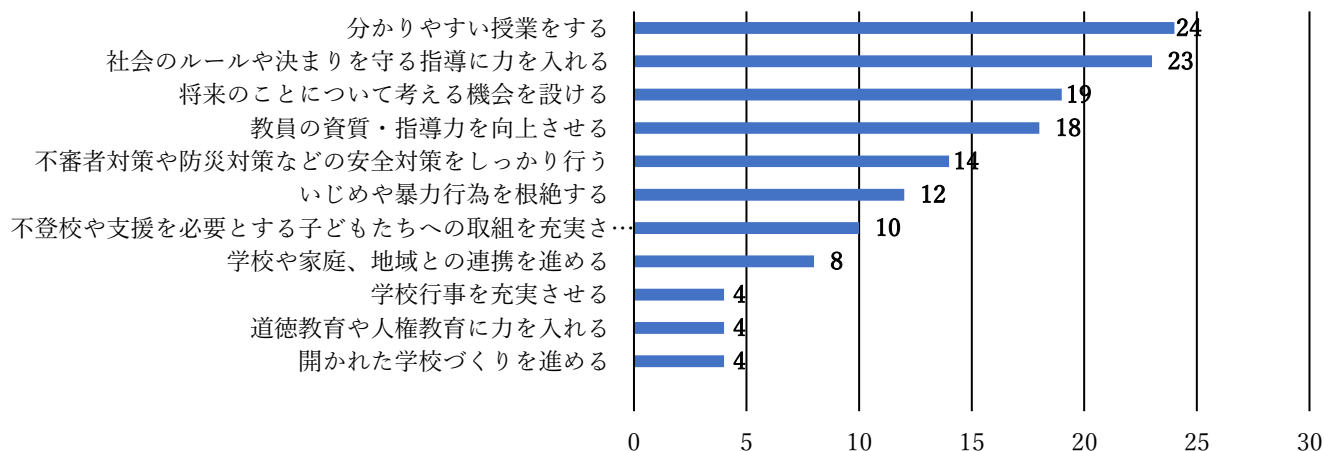
まず、学校として重要な項目、「1. 学校生活を楽しめている」は肯定的回答が89.9%【昨年比+8.0%、以下同様】で、約9割の肯定的回答でした。また、「7. 友達や下級生を大切にしている」は98.0%【+8.9%】、「9. 授業で学んだことが分かっているか」77.6%【+18.5%】、「10. 授業中はよく考え、自分の意見を進んで発表できている」69.4%【+16.7%】、「11. タブレットを使って学んだり、調べたり、まとめたりすることができている」86.1%【+10.5%】、「13. 先生は分かりやすい授業をしてくれている」83.7%【+16.4%】で、昨年と比較すると肯定的回答の割合が大幅に増えました。

しかし、「12. 先生に分からないことや困ったことを相談している」59.3%【+10.2%】、「8. わからない時や困った時に相談できる友達がいる」61.2%【-3.6%】と、6割程度の肯定的回答となっています。

アンケートの結果を受けまして、保護者の皆様からの信頼に応えられるよう、学習面では授業改善や、一人一人の子どもに応じた指導と支援の充実、生活面では子どもに寄り添う生徒指導や学級活動等の充実を図り、全項目80%以上の肯定的回答を目指してきたいと思います。

子どもたちや保護者、地域からの声に、全く耳を傾けない教職員はいません。本校教職員は、お子さんの言動や表情など、常にアンテナを張り、悩んでいたたり困っていたりしている子どもに対して、早めに支援や指導ができるように心がけているものの、完璧な対応ができているとは言えません。思いを友達や担任等に打ち明けられないお子さんもありますので、悩んでいることや、困っていることなどがありましたら、早めに学校まで連絡をお願いします。

学校に力を入れて取り組んでほしいこと（保護者）



「今後、力を入れてほしいこと」の上位項目は、「分かりやすい授業をする」、「規範意識や子どもの将来」、「教職員の資質・指導力の向上」、「防犯・防災対策」、「いじめや暴力の根絶」、「不登校や支援を要する子どもへの対応」などに関心が高いようです。規範意識と学力の向上、いじめや暴力、不登校をなくすために、今後も「自己存在感の感受(心で受けとめること)」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」を大切に安全・安心な学級(学校)の醸成(少しずつ創りあげること)を目指して、授業改善や発達支持的生徒指導に努めていきたいと考えています。

※ 発達支持的生徒指導とは：全ての児童生徒を対象に、学校教育目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤となります。児童生徒が自発的・主体的に自ら発達させていくことを支持しながら人権教育や道德教育、特別活動、あるいは多様性を認め合うというような日々の授業や諸活動をとおして行っていくます。

アンガーマネジメントのススメ

アンガーマネジメントとは、怒りの感情と上手に付き合うための心理的トレーニングのことです。怒らないことを目指すのではなく、怒るべき時には適切に怒り、不必要な怒りは手放すことで、感情をコントロールする能力を高めます。

怒ることは、いけないこと、悪いことではありません。無理して怒りを抑えたり、カッとなって感情的になったりせず、怒る必要のあることは適切に表現できること。怒りに振り回されず、怒りと上手に付き合えることを目指したいものです。

特に身近な人（家族や友達、職場の同僚等）に対して、きつい言葉をぶつけて、関係を壊してしまわないようにするためにも、アンガーマネジメントは必要です。

ここで、問題となる怒り方についてお伝えします。

- ①強度が強い：些細なことでも激高し、一度怒りだすと非常に強く怒る。
- ②持続性がある：一度怒ると、怒りが鎮まらず、かなり前のことまで根にもち、思い出し怒りをする。
- ③頻度が高い：常にイライラしていたり、カチンときたりすることが多い。
- ④攻撃性がある：イラっとした時に、他者を傷つける言動をしたり、自分を傷つけたり（責めたり）、物に八つ当たりをしたりする。

お恥ずかしながら筆者は、随分気長になりましたが、①④に課題がありました。問題となる怒り方がないように、学校でも家庭でも取り組んでいきたいと思います。